

## 2016・広大マスタースズ市民講座報告

### 「小学生のための理科実験教室」を終えて

コーディネーター 谷本能文

最近、子供たちの理科離れが問題になっている。そこで、小学生にいろいろな理科実験を自分自身の実験で体験してもらい、理科の面白さ・不思議さを楽しんでもらうという趣旨で、小学4～6年生定員 15名を対象に実験教室を開いた。講師は谷本能文（広大名誉教授）と樋高義昭（愛媛大学名誉教授）。開催時期は夏休みの7/30、8/6、8/20、8/27（いずれも土曜日）の10:00～11:30、場所は市民文化センター研修室である。

第1回「スイカ電池を作ろう」（出席者 14 名）では、スイカ・レモンなどに銅板と亜鉛板を差し込み、電池をつくり、電子オルゴールを鳴らした。第2回「スライムを作ろう」（22名）では、「スライムを作ろう」と「試してみよう！冷たい冷たいマイナス196℃の世界」の実験を行い、スライムつくりの楽しさや液体窒素温度で起こる不思議な現象を体験してもらった。第2回は、スライムを作ってみたいという小学1年生が沢山いたため、急遽定員オーバーで実験を行った。第3回「調べてみよう！いろいろな水溶液？」（12 名）では、ムラサキキャベツからとった水溶液の色が食酢を加えると赤くなり、ベーキングパウダー水溶液を加えると青くなるといった現象を実験した。第4回「カイロを作ろう」（15名）では、「カイロを作ろう」のほか「冷たいカイロ?」、「もっと冷たいカイロ??」と、化学反応で温かくなったり冷たくなったりする実験を行った。

いずれの実験でも児童は目を輝かせて実験を楽しんでいた。今回は夏休みということで、特に、自宅でも自分で実験し楽しめるような実験・夏休みの自由研究に役立てそうなテーマを選んで実施した。後日保護者から子供が自宅できると実験をしていましたという電話があったようで、子供たちが本当に実験を楽しんでいたことを知りとてもうれしかった。また、来年もこの教室に参加したいと言っていた児童もいた。「小学生の頃おもしろい理科実験をして、理科が好きになったよ」という中学生・高校生がいつの日か現れるのを楽しみにしている。なお、第1回は NHK 総合 TV の同日午後 6 時 45 分からの「ひろしまニュース645」に取り上げられた。

本講座実施に当たり実験指導補助などのご協力いただいた生涯学習課職員の方々にお礼申し上げます。また、大阪大谷大学薬学部分子化学講座・広島大学大学院理学研究科自己組織化学研究室に協力いただいた。

